

特別支援教育コース 令和5年度入学生用 カリキュラム・ツリー ※学習成果の達成に向けてどのような授業科目が連携し年次配当しているかを示しています。

コースの概要と人材養成のねらい

特別支援教育の対象となる子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身につけ、また特別支援教育コーディネーターとしての役割を担うことのできる教員を養成します。そのため、インクルーシブ教育システム構築の観点から、特別支援学校、幼稚園、小学校、中学校、高等学校ならびに各種施設における特別なニーズのある子どもたちの能力や個性に応じた専門的な教育支援を追究することによって、特別支援教育における指導的教育者、特別支援教育コーディネーター等となるのに必要な洞察力・実践力を育成します。

配当学年	開講期	(DP1) 学校教育の発展的理解	(DP2) 指導内容の高度な理解と実践的指導力	(DP3) 多様な子どもに対応できる指導力	(DP4) 教職力量をみがく力
		社会における学校の役割と望ましい専門職としての教員の在り方を理解し、それを踏まえたキャリアプランを策定できる。 学校安全と危機管理、人権教育、健康教育、子どもの貧困と児童虐待、社会的包摂などの今日的な教育課題について理解し、それに応じた実践を計画・実施できる。 学校の実情や特徴を踏まえた経営計画を策定できる。 特別なニーズのある子どものニーズをくみ取るための多様な視点と方法を会得し、それを実践できる。	教育課程編成の今日的課題やカリキュラム・マネジメントの理論を理解し、それを踏まえた実践を推進できる。 各学校の実情を踏まえて、当該校の教育課程全体を編成できる。 教科等の授業の多様性や今日的な在り方を理解し、それらに応じた授業を計画したり、そのための教材を準備したり、その指導と評価を工夫したりできる。 特別なニーズをもつ子どもの様々な状況を考慮して、教育課程、内容、教材・教具に反映できる。	各学校種の生徒指導上の問題のメカニズムや多様性を理解し、理論的・実践的に解釈できる。 各学校種の生徒指導上の諸課題に関して、発達段階や状況に応じた指導ができる。 各児童生徒の生徒指導上の諸課題に対し、適切な指導方法を選択して他の教員へ指導・助言ができる。 特別なニーズのある子どもの、それぞれのニーズを捉え、個に応じた指導・支援ができる。 個の教育ニーズに応じ、エビデンスに基づいた教育相談・支援を実践できる。	教育実践を研究的に展開するための視点と方法を会得している。 教育実践者としての自己を省察するとともに、他の教員との学びあいの中で教員の資質能力の向上をリードすることができる。 組織としての学校やその基本単位としての学校の在り方を理解し、地域・保護者・他機関との関係の構築を進めることができる。 校内支援や関係機関との連携を進め、校内における特別支援教育の推進役として、学校の課題解決に取り組むことができる。
M2	T4			発達支援教育実践論[2] 特別なニーズのある子ども臨床[2] 教育相談支援の理論と実際[2] 社会的包摂に関する実践的探究[2]	教師力・学校力・スクールコンプライアンス[2]
	T3				実践課題研究 I・II [計4]
	T2			通常学級におけるインクルーシブ教育の実践[2]	外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ[2]
	T1	人権教育の課題と実践[2] 学校安全と危機管理[2]		発達障がいのある子どもの理解と支援[2]	学校実習科目 [計10]
M1	T4		インクルーシブ教育の理論と実際[2]	特別支援教育コーディネーター論[2] 特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援[2]	特別支援教育の教育課程と授業論[2] 教育研究方法演習[2]
	T3	外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ [2]		特別なニーズのある子どもの生理と病理[2] インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援[2]	
	T2				
	T1	外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ [2] インクルーシブ教育の理論と実践[2]	学習指導の実践的展開[2] カリキュラム・マネジメントの理論と実践[2] 教育課程編成の今日的課題[2]	生徒指導と教育相談の実践的課題[2] 子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践[2]	学校経営と学級経営の理論と実践[2]

研究科共通科目  
太枠は必修

コース科目  
太枠は必修

※科目名の [ ] 内の数字は単位数